

人 口

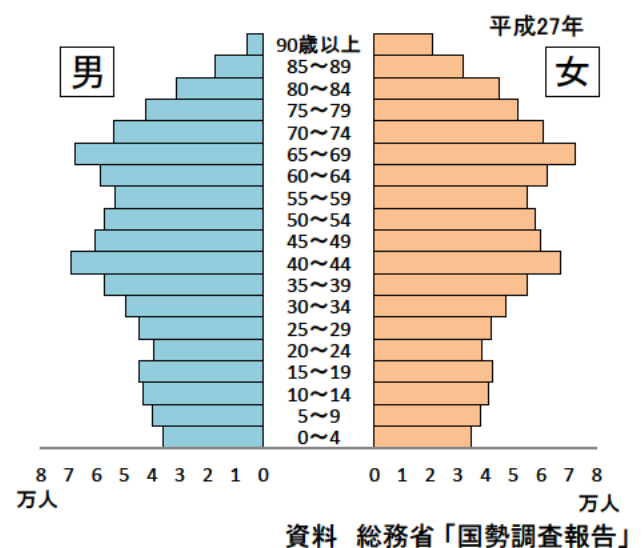
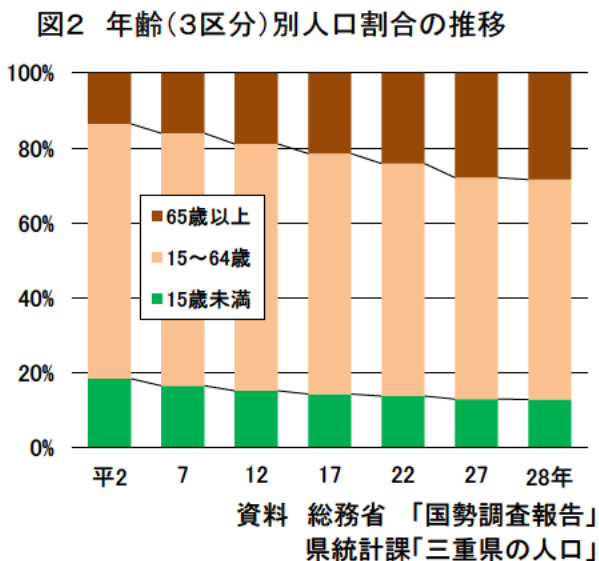
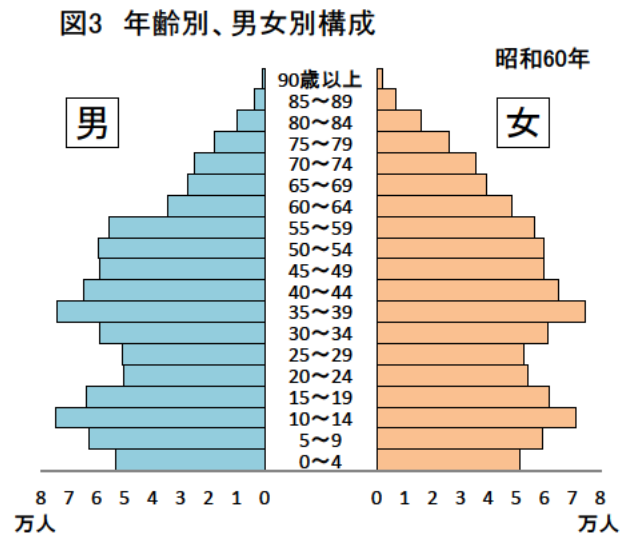
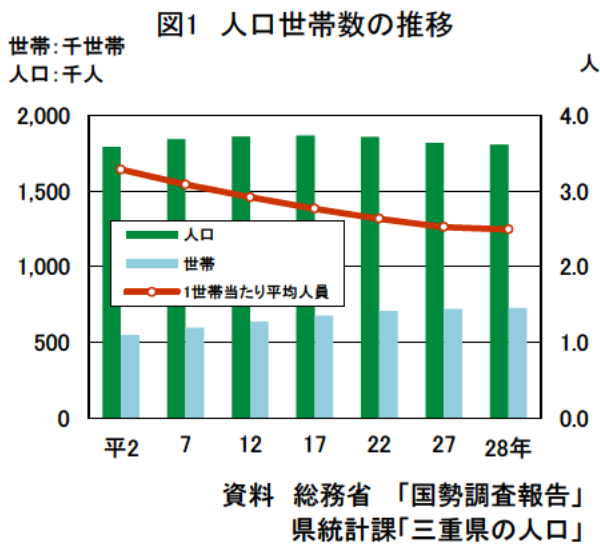
平成28年推計人口

平成28年10月1日現在の総人口は180万7,611人（男88万50人 女92万7,561人）で、前年に比べ8,254人（0.5%）減少しました。

また、年齢3区分別にみると、年少人口（15歳未満）が総人口に占める割合は12.7%、生産年齢人口（15～64歳）割合は58.0%、老年人口（65歳以上）割合は28.2%となっています。平成27年国勢調査結果と比較すると、年少人口割合が0.3ポイント、生産年齢人口割合が1.1ポイントそれぞれ低下しました。一方、老年人口割合は0.3ポイント上昇しました。

平成27年国勢調査結果

平成27年10月1日現在の総人口は181万5,865人（男88万3,516人、女93万2,349人）で前回調査の平成22年に比べ38,859人（2.1%）減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和30年～35年にわずかに減少したのを除くと、大正9年以降増加を続けていましたが、平成22年調査から減少に転じました。総世帯数は72万292世帯で、平成22年に比べ1万5,685世帯（2.2%）増加しました。



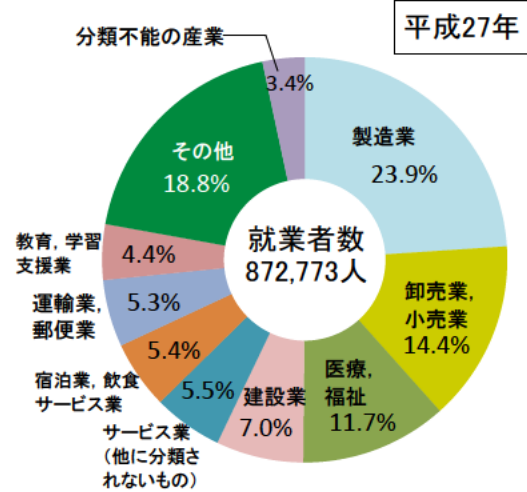
産業別就業者数

平成27年10月1日現在（国勢調査）の15歳以上の就業者は87万2,773人で、前回調査の平成22年に比べ2万2,324人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の20万9,004人（構成比23.9%）、次いで卸売業、小売業の12万6,075人（同14.4%）、医療、福祉の10万2,406人（同11.7%）と続いています。

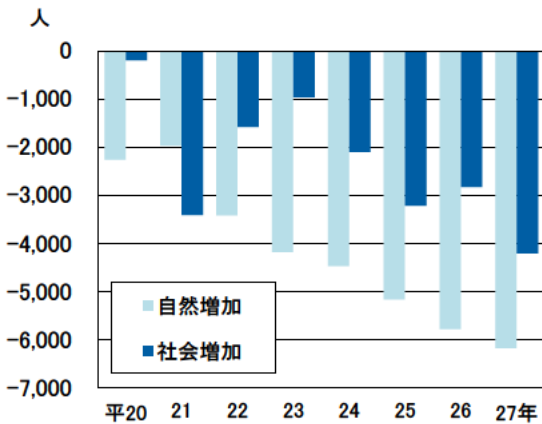
また、産業3部門別にみると、第1次産業が3万1,229人（構成比3.6%）、第2次産業が27万322人（同31.0%）、第3次産業が54万1,969人（同

図4 産業別就業者数



資料 総務省「国勢調査報告」

図5 人口動態の推移



資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」
厚生労働省「人口動態統計」

人口動態

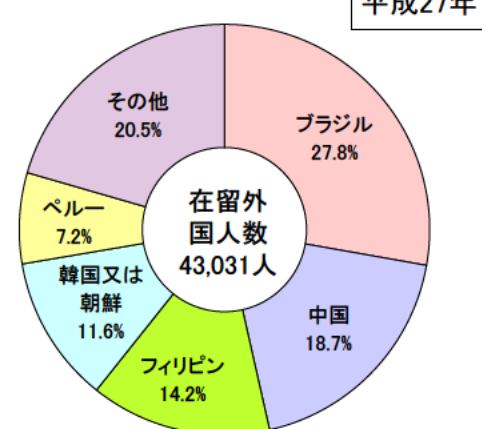
平成27年1年間の人口動態は、出生1万3,950人、死亡2万139人、他都道府県からの転入2万6,736人、他都道府県への転出3万954人となりました。

人口動態の推移を自然増加（出生－死亡）と社会増加（県外からの転入－県外への転出）で見ると、自然増加数は年々、減少数が拡大する傾向にあり、平成27年には6,189人の減となりました。また、社会増加数は平成20年から27年まで8年連続（平成27年4,218人）の転出超過となりました。

在留外国人数

平成27年12月31日現在の在留外国人数は、4万3,031人でした。国別の内訳をみると、ブラジルが1万1,957人（外国人構成比27.8%）、中国が8,038人（同18.7%）、フィリピンが6,130人（同14.2%）、韓国又は朝鮮が4,996人（同11.6%）、ペルーが3,078人（同7.2%）などとなっています。

図6 在留外国人数



資料 法務省「在留外国人統計」